

国有林モニターを経験して新たな発見！

山形県 本間 江



して現地を見学する機会を得てみると今までの知識や理解が浅く偏った物だと思い知らされました。

特に第一回の秋田での現地見学会で、テレビで良く目にするスギの枝打ち作業が、一部を除いて行われていない事、多くの場合、樹の間隔の狭さに困って成長と共に自然に下枝が枯れ落ちる事を知り驚きました。

報道から受ける印象では、林業作業者の人手不足や山の持ち主の財政的理由で杉の枝打ちができず、そのせいで大量に花粉が付いて、杉花粉症を助長している様な内容の物が多く、実際とは大きく違い驚きました。

実際に見聞きする機会を得て、大変有意義な経験だったと思います。翻って、私たち国民の情報収集能力や情報を多く発信している所謂マスコミの問題点も垣間見える結果となりました。

この様な事から、東北森林管理局の活動の大きな柱として、更なる情報の発信に努力をお願いしたいと思います。

また、宮城県荒浜で行った黒松の植樹も印象深

い経験でした。先の震災・津波での被災地に足を踏み入れることに何となく申し訳ないような気持ちがありました。この様な機会を頂いて被災地の現状を理解する助けになりましたし、津波で消失した黒松林と被害を免れた部分の差が根張りの深さの問題であり、それが地下水面の深さに大きく影響される事、現在の植樹部分はその経験を生かして、地下水面から根が離れるよう嵩上げ部分で行われている事を知る事ができました。

昨年の岩手での現地見学会での二ホンシカによる被害とその対策、造林費用削減の為の植え付け樹間の拡大化の取り組みも大変勉強になりました。特にシカの駆除についてはジビエとしての食肉の利用に大きな可能性を感じました。

実際、北海道のエゾシカについては商業利用の取り組みが進んでいると聞いていますし、長野県で駆除したシカ肉を使ったジビエバーガーがJR東日本系列のファストフード店「ベッカーズ」で季節限定メニューとして好評だそうです。

現在は林を荒らす厄介者の位置づけの二ホンシカも、消費者に新たな価値を提示する事ができれば国有林事業の新たな収入源になると共に、新たな産業としての展開も考えられると思います。シカの生態系への影響や適正な個体数の調査、効率的な捕獲と食肉処理、流通、商品開発などに民間の力を上手く導入して地域の新たな産業となる様な道筋作りを期待しています。

マスコミ等を通じて、自分なりに国有林事業について理解しているつもりでしたが、モニターと